NEWS RELEASE

一般社団法人　日本IR協議会
〒101-0047　東京都千代田区内神田1-6-6　MIFビル9階
Tel 03-5259-2676(代表) Fax 03-5259-2677　http://www.jira.or.jp

2025 年 11 月 13 日

「ＩＲ優良企業賞２０２５」発表

一般社団法人日本ＩＲ協議会（会長：手代木功 塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO）は、このほど「ＩＲ優良企業賞 2025」受賞企業を決定いたしました。

「ＩＲ優良企業賞」（審査委員長：北川哲雄 青山学院大学名誉教授、東京都立大学特任教授）は、ＩＲの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で 30 回目を迎えます。審査では、主に下記の点を重視して受賞企業を選定いたしました。

- **【不確実性の高いなかでの経営戦略】** 将来を見通しにくく変化が激しいなか、適切に情報開示して対話を活かす姿勢。中長期視点で成長投資と還元を表明し、進捗を定期的に報告。人的資本など非財務領域に投資し企業価値向上に取り組むとともに、投資家に理解しやすい指標も設定。透明性の高い経営を基盤として、成長に向けた経営の実効力と持続力を示す取り組み。
- **【企業グループ全体の説明力強化】**ＣＥＯとＩＲ担当役員、ＩＲ部門に加え、事業部門責任者などを含む企業グループ全体の説明力や対話力を強化。経営層は対話で得られた「気づき」を企業グループ全体で共有し、適切に対応。取締役会は定期的にＩＲ部門から報告を受け、社外取締役も説明・対話に関与。ＩＲ部門の位置づけを明確にし、責任者・担当者を育成する取り組み。
- **【企業価値・社会価値を結びつけて向上】** 気候変動対応や人的資本への投資、女性活躍推進などサステナビリティ関連の取り組みを、投資家の視点で企業価値と結びつけて説明。さらにステークホルダーと協働し、社会価値向上につなげる道筋を、定量的な指標や活動例の紹介などを通じて説明・対話する取り組み。
- **【中長期視点の海外投資家と個人投資家の支持獲得】** 政策保有株式の縮減を踏まえた取り組み。海外投資家向け説明資料や対話機会の拡充。新ＮＩＳＡを機に投資に関心を持つ個人に対しても説明会などを通じ、新たな株主層として開拓する取り組み。
- **【リスクの早期認識と対応】** 地政学リスクや情報セキュリティ問題の拡大などによって先行きの見通しが難しいなか、リスクの認識を早めに示し、対応していることを示す取り組み。

北川審査委員長は、「今年度の受賞企業は、いずれもＩＲ活動のレベルが高く、環境変化に応じた取り組みを進めています。経営トップ自ら資本コストや株価を意識した経営を説明し、明確なメッセージを発信しています。ＩＲ部門もタイムリーな情報開示やイベントの充実によって投資家の期待に応え、個人投資家を対象にした活動にも取り組んでいます。奨励賞受賞企業も定期的に経営トップが投資家と対話し、ＩＲ活動のレベルアップに努めています。日本市場に対する注

目が続くなか、さらなるＩＲ活動の充実が期待されます」と語っています。

審査対象は、日本ＩＲ協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2025 年の応募企業は 371 社となりました。受賞企業はＩＲ優良企業大賞 2 社、ＩＲ優良企業賞 6 社、ＩＲ優良企業特別賞 3 社、ＩＲ優良企業奨励賞 2 社の 13 社です。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

（各賞社名 50 音順）

ＩＲ優良企業大賞 受賞企業

株式会社アシックス
株式会社荏原製作所

ＩＲ優良企業賞 受賞企業

旭化成株式会社
ＴＩＳ株式会社
ＴＤＫ株式会社
日産化学株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
三井物産株式会社

ＩＲ優良企業特別賞 受賞企業

株式会社小松製作所（コマツ）
中外製薬株式会社
株式会社良品計画

ＩＲ優良企業奨励賞 受賞企業

株式会社イトーキ
Ｓａｎｓａｎ株式会社

各賞の概要は下記の通りです。

ＩＲ優良企業賞

日本ＩＲ協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

ＩＲ優良企業大賞

ＩＲ優良企業賞を直近 10 年以内に 2 回受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「ＩＲ優良企業賞」の対象から除外されます。

ＩＲ優良企業特別賞

ＩＲ優良企業賞に応募した企業のうち、継続的にＩＲのレベルを高めている、業界のリーダーとしてＩＲに積極的である、個人投資家向けＩＲの評価が高い――など、活動内容に特徴の見られる企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

ＩＲ優良企業奨励賞

ＩＲ優良企業賞に応募した企業のうち、東証スタンダード市場や東証グロース市場、その他新興市場に上場する企業、また東証プライム市場であっても新規に株式を公開後 10 年目以内の企業、およびＩＲ優良企業賞に初めて応募する企業のうち中小型株企業を主な対象として表彰しています。2002 年より表彰をスタートさせました。

審査方法は３段階で、下記の通りです。

① 応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第１次審査（290 社が第２次審査へ進出）
② 審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員 12 名がＩＲ優良企業賞審査対象企業 214 社、ＩＲ優良企業奨励賞審査対象企業 76 社を評価する第２次審査
③ 専門委員による第２次審査をもとに、学識経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第３次）審査

「“共感！”ＩＲ賞」を選定いたしました。

“共感！”ＩＲ賞（共感賞）とは、ＩＲ優良企業賞の開催 25 回目を機に 2020 年に新設したものです。ＩＲ優良企業賞に応募した企業の視点を「投票」によって反映させ、積極的なＩＲ活動を共有し、ベストプラクティスの実現を目指すことを目的としています。2025 年は「新たな株主層を開拓するための取り組み」をテーマといたしました。詳細および選定企業につきましては日本ＩＲ協議会ウェブサイト https://www.jira.or.jp をご覧ください。

※本ニュースリリースの英語版は日本ＩＲ協議会ウェブサイトにてご覧いただけます。

問い合わせ先：　一般社団法人日本ＩＲ協議会 事務局
ＴＥＬ：03-5259-2676　　ＦＡＸ：03-5259-2677

日本ＩＲ協議会とは：1993 年設立のＩＲ普及を目的とする非営利団体。会員数は 724（2025 年 10 月１日現在）、主な活動はＩＲの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。
https://www.jira.or.jp

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴（各賞社名 50 音順）

ＩＲ優良企業大賞 受賞企業

アシックス

（2024 年・2023 年優良企業賞）

経営層が企業価値向上を目指し、主導的にＩＲを充実させている。CEO や CFO は投資家と直接対話し、その頻度も高い。情報開示も詳細で、製品カテゴリー・地域別の利益率などから経営計画の進捗状況などが読み取れる。ＩＲ部門は投資家のニーズをくみ取り、説明資料やイベントに反映させている。米トランプ政権による関税影響や商品トレンド動向などの質問にも適切に答えている。資本コストを意識した経営の説明や社外取締役との対話機会の設定、個人投資家向けＩＲも積極的に進めている。これからも持続的な成長戦略の表明や資本収益性の向上に期待する。

荏原製作所

（2023 年・2022 年優良企業賞）

経営層が積極的に資本市場と対話する姿勢を続けている。現社長は就任内定の公表後まもなく中長期の経営方針を投資家に説明し、その後の対話機会も増やしている。事業戦略の理解を促すＩＲに積極的であり、事業別 ROIC 開示や決算説明会資料、IR Day などを通じて企業価値向上に向けたプロセスを示している。統合報告書にも定評があり、ガバナンスやサステナビリティを含めた企業グループ全体の取り組みをわかりやすくかつ的確に伝えている。対話機会が増えるなか、ＩＲ部門はアナリストなどからの要望に応える資料や活動の拡充を進めている。

ＩＲ優良企業賞 受賞企業

旭化成

（2008 年・2004 年優良企業賞）

近年、経営トップが資本市場と向き合う姿勢を明確にしている。投資家と対話する機会を増やし、ＩＲ活動にも反映させている。統合報告書は、投資家の疑問や懸念に正面から答える構成と内容に刷新している。決算の事業セグメント別開示を充実させ、3 つの事業領域を持つ意味も説明している。特許などを経営戦略としてとらえた「無形資産説明会」も各事業を通す「横軸」を示した点で注目される。ESG 課題への取り組みについても、サステナビリティ説明会の実施などを通じて積極的に発信している。

ＴＩＳ

（初受賞）

経営トップが積極的にＩＲに取り組み、対話機会を充実させている。資本コストや株価を意識した経営に関する説明も具体的である。中期経営計画で EPS 成長率の目標を掲げるなど、企業価値向上への強いコミットメントが伝わってくる。ＩＲ部門の位置づけも重視されており、経験豊富な担当者が配置されている。ＩＲ部門の対話力も高く、経営層との情報共有がスムーズであることがうかがえる。決算説明会資料や統合報告書におけるコーポレートガバナンスや人的資本に関する説明も充実している。

ＴＤＫ

（2005 年優良企業賞）

近年、経営層と投資家との対話機会やＩＲ活動を拡充させている。工場見学会兼事業戦略説明会や社外取締役ミーティングなどの開催を通じて、多面的に投資家の理解を深めている。資本コストや株価を意識した経営に対する意識も高い。事業別 ROIC の開示や長期ビジョンからバックキャストする経営方針の説明により、事業ポートフォリオ最適化や中長期の見通しを把握しやすくしている。統合報告書や「未財務資本説明会」を通じて、人材や企業文化が企業価値向上にどう結びつくかの説明にも取り組んでいる。

日産化学

（2024 年特別賞）

情報開示のレベルが高く決算説明会資料が極めて充実している。セグメントごとの業績変動要因分析や四半期ごとの予実差異分析は、アナリストの業績予想などに大きく役立っている。中長期の視点でも各事業がどのような状況にあるかを説明し、セグメント別 ROIC の開示などによって資本生産性を高め、経営改革に取り組む姿勢を示している。CFO が中心となって投資家視点に立った開示や対話の充実に努めており、ＩＲ部門も適切に対応している。非財務資本と企業価値向上を結びつける説明にも取り組んでいる。

みずほフィナンシャルグループ

（2015 年特別賞）

経営層がＩＲ活動に関与して評価を高めている。CEO や CFO は投資家と率直に対話し、資本コストや株価を意識した経営の意識も伝わってくる。成長戦略においては EPS や ROE 向上を目標に掲げ、実現に向けた説明もわかりやすい。ＩＲ部門も投資家の意見や要望などを踏まえて活動の向上に努めている。IR Day では事業の注力領域や課題、強みなどの説得力を高め、カンパニー長が出席して投資家と対話している。複数のビジネスの立体的な理解が進み、グループシナジーに関する期待も高まっている。

三井物産

（2021 年大賞/2019 年・2018 年・2008 年優良企業賞/2014 年特別賞）

経営トップが資本市場と継続的に対話し、経営に活かしている。トップ自ら大規模投資や中期計画の要点を説明し、投資家視点を踏まえた資本政策も実行している。ＩＲ部門は投資家の理解を深めるためにインベスターデイや事業説明会を継続開催し、関心に即した内容の向上に努めている。個人投資家向けＩＲも積極化し、投資経験やニーズなどを考慮してきめ細かく活動を展開している。統合報告書のブラッシュアップや企業価値向上につながるサステナビリティ関連の開示にも取り組んでいる。

ＩＲ優良企業特別賞 受賞企業

コマツ（小松製作所）

（2017・2010 年大賞/2024 年・2020 年・2016 年・2013 年・2008 年・2007 年優良企業賞）

継続して情報開示の充実に努めている。とくに今年は米国トランプ政権の関税導入の影響を早期に開示し、業績見通しも公表している。不透明な状況においてもリスクを分析し、製造メカニズムなどの背景も説明して投資家の理解を深めている。また鉱山機械・一般建機の地域別の現地通貨ベースでの動向など、投資家の要望を踏まえた開示の強化にも努めている。ＩＲ部門は経営トップによる対話や IR Day、社外取締役との対話といったイベントを充実させ、活動の年間スケジュールも期初に示している。

中外製薬

（2023 年・2020 年優良企業賞）

ＩＲ活動のレベルが高いといわれる医薬品業界のなかにあって継続して評価されている。経営トップは定期的に投資家と対話し、ＩＲ部門は投資家の視点をフィードバックしている。工場見学会や研究所見学会、R&D 説明会などのイベントも充実している。新薬が承認された後や学会発表の後に開催する説明会も企業価値の算定や分析に役立っている。人的資本が企業価値に与える効果を説明するなど、社会価値向上と企業価値向上の結びつきの説明も強化している。個人投資家向けＩＲも取り組みを進めている。

良品計画

（初受賞）

近年、経営層が前向きにＩＲ活動に関与してレベルを高めている。ＩＲ部門へのアクセスも良好で、投資家の理解が深まるよう丁寧な説明に努めている。決算説明会資料などの情報開示も改善・拡充されている。とくに月次実績に関するリモート説明会にはアナリストの業績予想などに役立つとして、多数の参加を得ている。社外取締役とのスモールミーティングや店舗見学会、半期ごとの商品展示会などイベントも積極的に開催している。全国各地で個人投資家と丁寧に対話する姿勢にも評価が集まっている。

ＩＲ優良企業奨励賞 受賞企業

イトーキ

（初受賞）

経営トップを中心にＩＲ活動を重視する姿勢が明確になっている。トップから経営幹部、ＩＲ部門まで資本市場と積極的に対話し、経営に反映することで企業価値向上を図ろうとする意識が伝わってくる。情報開示の改善を段階的に進め、決算説明会資料の改善に努めている。四半期ごとの決算説明会に加え、工場見学会や施設見学会、IR Day など積極的にイベントを開催し、機関投資家との対話機会を増やしている。個人株主増加を目指した株主優待の導入やＩＲサイトの向上にも取り組んでいる。

Ｓａｎｓａｎ

（初受賞）

経営トップ自ら決算説明会で方向性を示すなど、資本市場のニーズに応えようとしている。四半

期ごとの説明会開催などを通じ、国内機関投資家との接点を拡充している。海外投資家に対しても CEO や CFO が海外ＩＲで説明する機会を設け、ＩＲ部門も海外投資家へのアプローチを進めている。情報開示も改善し、中期経営計画の KPI を設定したり、競合環境や顧客の獲得状況を分かりやすく説明したりしている。個人投資家向け説明会の開催やＩＲサイトの刷新などにも取り組んでいる。

以　上